



西部地域

地域の特色や課題

西部地域は県南西部の4市3町2村からなり、河川沿いの平坦地域から山間地域まで地形変化に富んでいます。管内の農地は、標高60mの平地から800mの山間地まで分布し、それぞれの地域の自然環境の特色を生かして、野菜、果樹、花き、米麦、こんにゃく、畜産等、多品目にわたる多彩な農業が展開されています。

榛名山南麓から安中市方面にかけては、なし、うめ等を中心に県内有数の果樹産地が形成されています。また、安中市と富岡市にまたがる松義台地を中心とした地域は大規模な畑地となっており、こんにゃくや露地野菜が生産されています。

一方、中山間地域では、耕地面積が狭く、傾斜地が多いなど農業生産条件が不利な農地が多いため、耕作放棄地の増加により生産基盤の脆弱化が進行しています。

地域の農業を支える多様な担い手の確保と農地の集積・集約化、産地の活性化、地域資源を生かした中山間地域の振興、鳥獣被害対策の強化等が課題となっています。

基本方向

● 地域農業を担う多様な担い手の確保・育成

- ニューノーマルに対応した多様な担い手を確保・育成するとともに、就農後の経営安定・定着を図ります。
- 認定農業者等の農業技術や経営管理能力の向上を図り、地域農業の牽引役となる人材を育成します。
- 農地中間管理事業等を活用した担い手への農地集積・集約化を推進します。
- 農福連携等を通じて、労働力不足の解消を図ります。

● 地域の特徴を生かした収益性の高い農業

- なし、うめ等の果樹産地において、改植推進、県育成品種の導入、新たな技術の導入・拡大により、生産性の向上を図ります。
- 野菜やこんにゃく栽培におけるICT等を活用したスマート農業の普及を推進します。
- 水田フル活用による飼料イネ、飼料用米、麦類の安定生産、売れる米づくり・麦づくりを推進します。

● 地域の特徴を生かした農村地域の活性化

- 地域の歴史的・文化的背景を持つ多彩な農畜産物の生産や6次産業化を振興します。
- 地域農畜産物の「強み」を生かした魅力発信や加工品等による高付加価値化を推進するとともに、国内外への販路拡大の取組を支援します。
- 地域の農畜産物や農村文化、農村景観等の魅力を情報発信し、地域に継続的に関わる関係人口を増加させ、農村地域の活性化を図ります。
- 多面的機能支払交付金や中山間地等直接支払交付金を活用した地域協働活動の推進により、耕作放棄地の解消や農業用水路の保全管理を支援します。

● 農業生産基盤の整備・保全・管理

- 農業の生産基盤である農地と基幹的水利施設の保全対策を推進します。
- 関係市町村と連携して、防災重点ため池、地すべり防止、老朽化した管水路等の防災・減災対策を進めます。
- 野生鳥獣被害対策は、官民共創による体制づくりを推進し、侵入防止柵の設置や有害鳥獣捕獲、指導者の育成等を支援します。

● 消費者視点の安全・安心な農畜産物の生産・提供

- 持続可能な農業生産、信頼される産地づくりに向けて、GAPの実践による安全性の確保、エコファーマーの育成、特別栽培農産物の取組を推進します。
- 堆肥を有効に活用した土づくりや化学肥料の適正施肥、農薬の安全かつ適正な使用により、安全・安心な農産物の生産を推進します。
- 酪農では、飼料自給率の向上を目指し、飼料の生産拡大と利用促進を図ります。
- 飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、市町村や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。

地域重点プロジェクト

A こんにゃく栽培を中心とした松義台地等の農業振興

富岡市と安中市にまたがる松義台地周辺の農地は、基盤整備の実施により、こんにゃくを中心とした大規模で多様な畑作農業が展開されています。

本地域における持続性のある農業の維持・発展のためには、担い手への更なる農地集積の推進や、土地利用型農業を下支えする経営面や生産面での営農支援が求められています。

そこで、基幹作物であるこんにゃくの栽培技術の向上、輪作体系の構築、担い手への農地集積・集約化、スマート農業の導入等、生産性向上や経営改善に向けた取組を総合的に支援します。

[推進内容]

- 地域の話合いによる担い手への農地集積・集約の推進
- こんにゃくの生産組織支援等による担い手の確保・育成、労働力確保
- こんにゃくの安定生産に向けた栽培・経営支援
- 栽培に適した農業用排水路等の改善、整備の検討・提案



整備された松義台地



こんにゃく栽培研修会



地域の生産者による話合い

[数値目標]

目標指標	単位	R元(基準年)	R7(目標年)
松義台地の担い手への農地集積	ha	85.6	106
こんにゃく越冬栽培面積	ha	27	39

B 果樹産地（なし、うめ等）の活性化

西部地域は、なし、うめ等を栽培する県内一の果樹産地ですが、担い手の高齢化、果樹の老木化等により産地の維持が難しくなっています。さらに、クビアカツヤカミキリの発生が確認されたことによる果樹園管理の徹底、温暖化に対応した品種や技術の導入が求められています。

そこで、新たな担い手の確保・育成、改植推進、環境に優しい持続可能な農業の推進等により、産地の活性化を図ります。また、大学、生産者や商工業者等と連携した産地の認知度やイメージの向上による販売力強化を図ります。

[推進内容]

- 新たな担い手の確保・育成と栽培技術の向上支援
- 産地維持のための改植推進と遊休園地の発生抑制
- 新品種や新技術の導入・拡大
- 果樹産地の情報発信等による販売力強化



うめ県育成品種「群馬 U6 号」

[数値目標]

目標指標	単位	R元（基準年）	R7（目標年）
果樹（なし、うめ等）改植面積	ha	4.1	10.3
ナシハダニ天敵導入農家数	戸	11	35

C いちご産地活性化

西部管内でのいちごの作付面積は約21haと県全体の約4割を占め、県育成品種「やよいひめ」の導入率は9割程度となっています。一方で、生産者の高齢化等に伴う生産量の減少、品種特性を生かした高品質安定生産が課題となっています。

近年、若い就農希望者も徐々に増えており、直売や観光農園等の取組も広がっています。

そこで、多様な経営を視野に入れた高品質安定生産への取組の支援を行い、産地の活性化を図ります。

[推進内容]

- いちご新規生産者の確保・育成
- ICT等の技術導入による生産性・品質向上
- IPM技術導入による環境に優しい農業への取組
- GAP導入による経営改善



個別巡回指導

[数値目標]

目標指標	単位	R元（基準年）	R7（目標年）
いちご10aあたり収量（2JA）	kg	4,285	4,500
IPM技術導入農家戸数（全域）	戸	57	76